

『淀川水系流域委員会の審議スケジュールについて』

2007年9月2日

自然愛・環境問題研究所 代表 浅野隆彦

A. 何故、急ぐのか？

年内に委員会の意見書をまとめる。来年3月に「淀川水系河川整備計画」を策定する。・・・大きく、掻い摘んで言えばそのように近畿地方整備局は求めている。これは相当ハードなスケジュールである。委員たちの中に『話が違う。』

『毎週の出席はとても無理。』などと、異論が噴出している。

何故こんなに急ぐのか？整備局長が来て、説明しなければならない。

B. 効率性を錦の御旗にするな！

第58回委員会に於いて『淀川・・・の現状と課題』が説明されたが、「飛ばし」「流し」で、説明不足を屁ともせず遣るものだから、殆んど理解できなかった。傍聴者の手元には「モノクロの資料」であるから余計分かりづらい。これが効率性であれば、何の役にも立たぬものと言わねばなるまい。

私達流域住民は「審議に確実性」を求める。効率性に振り回され、希薄な審議をしないで貰いたい。

C. 確実性に疑問があるものは採用しない＝予防原則を貫け！

この方針は「整備計画」のみでなく、「審議スケジュール」の検討にも適用すべきである。初めから「とにかくやってみよう」ではなく、「最後は約束できない！」と釘を打って置くべきである。後々、無理をして期日に合わせようと急ぐのでは「充実した議論や審議が出来ない」事必定。20年～30年と言う長期に渡る計画を決めるのである。

現在の社会は大きな曲がり角にある。この先、人口減少、経済縮小、地球温暖化などの影響による異常気象の頻発の恐れ、東南海大地震の勃発などの影響を考えると、現状だけでなく、変化する未来を見据えて掛からねばならない。変化する未来を確信的に認識した上で選ぶことが原則である。